

## 1 基本的な考え方

### 【「県民みんなの球技場」としての総合球技場整備の方向性】

#### ○基本的機能

（一流のスポーツに親しむ環境づくり、「するスポーツ」「見るスポーツ」の充実）

- ・サッカー、ラグビー、アメリカンフットボールなど幅広い競技を実施することができ、上質な臨場感・躍動感とその場の一体感を醸成し、観客やプレーヤーの満足感を高めるものであること
- ・高齢者や障害のある人なども気軽につどい、感動を共有できるものであること
- ・次世代を担う若者に夢や希望を与え、県民のシビックプライド（山梨に対する誇りや愛情）を育むものであること

#### ○附帯施設（県民の健康増進、イベント等の多様な利用）

- ・県民の健康増進、体力づくりに役立つ附帯施設の整備を行い、本県の健康寿命日本一を支えるものであること
- ・附帯施設は子供からお年寄りまで、障害の有無にかかわらず誰もが利用できるものであること。

#### ○その他

- ・全国規模の大会やイベント等の誘致などにより、小瀬スポーツ公園全体の有効活用が図られること
- ・県民の交流の場となるとともに、リニア開通に伴う広域アクセスの劇的な改善に伴い、更なる広域交流人口の拡大を生むものであること
- ・スポーツやイベントを通じて、地域経済への波及効果を創出し、本県の振興に大きく貢献するものであること
- ・ユニバーサルデザイン、環境面での配慮などモデル的施設となるものであること
- ・山梨のランドマークとして、本県の魅力を発信するものであること

### ○県民の利用イメージ

属性	球技場（ピッチ、スタンド）	附帯施設
一般利用者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロ・アマチュアの試合観戦</li> <li>・ライブビューイング、eスポーツ等のイベントへの参加</li> <li>・球技の大会・練習でのピッチ利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アリーナ、芝生練習場、フィットネス施設、ランニングコースでの日常的なスポーツ・健康づくり</li> <li>・飲食施設等での交流</li> <li>・イベントスペースや公園全体でのイベントへの参加</li> </ul>
児童・生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・球技の大会・練習、運動会等でのピッチ利用</li> <li>・スタジアムキャンプ等でのピッチ利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アリーナ、芝生練習場でのスポーツ教室への参加</li> <li>・雨天でも利用できる屋内遊具の利用イベントスペースや公園全体でのイベントへの参加</li> </ul>
高齢者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロ・アマチュアの試合観戦</li> <li>・ライブビューイング、eスポーツ等のイベントへの参加</li> <li>・健康づくりイベント等でのピッチ利用</li> <li>・生涯学習講座など教育利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アリーナ、芝生練習場、フィットネス施設、ランニングコースでの日常的な健康づくり、教育利用諸室</li> </ul>
障害者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健常者とともに楽しめるプロ・アマ試合のスポーツ観戦</li> <li>・ライブビューイング、eスポーツ等のイベントへの参加</li> <li>・球技の大会・練習でのピッチ利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アリーナ、ランニングコースでの車いすでも利用できる屋内運動施設でのスポーツ活動</li> <li>・飲食施設等での交流</li> <li>・イベントスペースや公園全体でのイベントへの参加</li> </ul>
企業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スカイボックス、ビジネスラウンジ等での会議、研修、レセプション、会食展示会、商品発表会等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アリーナや諸室を利用したビジネス研修の実施</li> </ul>

## 2 建設地の概要

### 【敷地概要】

所在地 : 山梨県甲府市下鍛冶屋町地内（小瀬スポーツ公園第3駐車場）  
敷地面積 : 約57,000㎡（買収予定面積を含む）

#### 位置図



#### 小瀬スポーツ公園全体図

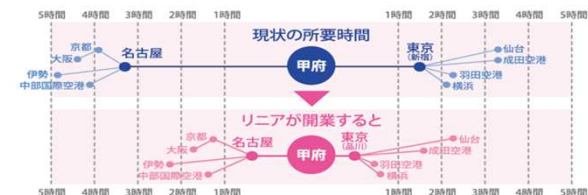


## 3 公共交通アクセス

### 【リニア中央新幹線の開業】

東京・品川～名古屋間のリニア中央新幹線の開業（2027年予定）により、東京都心、名古屋から小瀬スポーツ公園への公共交通アクセスの所要時間が大幅に短縮される。

#### リニア開業後の公共交通アクセス



## 4 道路交通アクセス

### 【新山梨環状道路東部区間の開通】

総合球技場の建設予定地の付近では、新山梨環状道路の東部区間（甲府市西下条町～笛吹市石和町広瀬）のインターチェンジの計画が進められている。

開通後の交通への影響を解析したところ、Jリーグ開催時は小瀬スポーツ公園入口や井戸、中道橋北などの交差点での渋滞が緩和され、また、住宅地内道路に入り込んでいた車が減り、住民生活への悪影響が軽減される。さらに混雑の緩和された交差点を利用するという選択肢が増え、交通量の分散が行われることにつながり、波及効果的な交差点の混雑緩和が期待される。

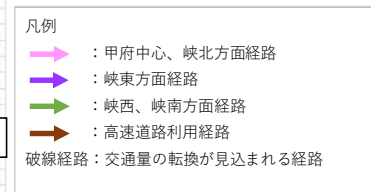
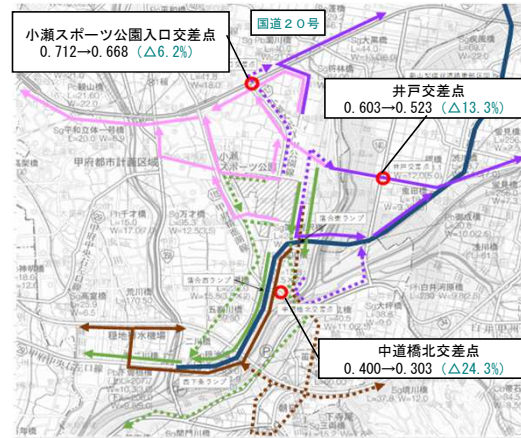
新山梨環状道路の計画図（広域）



新山梨環状道路の計画図（敷地付近）



交通解析結果（公園周辺の交差点の状況）



## 5 客席についての基本的な考え方

客席については、各種基準で示される要件を満たすとともに、臨場感ある観戦環境を備え、誰もが快適に過ごすことができるよう、多様な席を設置することとする。

### 【客席の考え方】

- 客席については、全席背付・個室化を図る。
- 客席は、すべて屋根で覆うものとする。
- 高齢者や障害のある方、車椅子利用者が利用しやすいバリアフリーに配慮する。
- スカイボックス、ファミリーシートなど、多様な席を設置する。
- バックスタンド、サイドスタンドの最前列は、臨場感を味わえる「ゼロタッチ（最前列がピッチの高さと同じ）」とする。

車椅子席



ゼロタッチの観客席



スカイボックス



## 6 付帯施設

「利用の最大化」を図るため、球技場での試合やイベント興行等が開催されていない日など、日常的に総合球技場が多くの県民に利用されることを目指す。

### (1) スポーツ関連の付帯施設

- ① トレーニングジム・フィットネスルーム（グレードの高いスポーツジム）
- ② ロッカー室・シャワー室（他の公園施設利用者も利用可）
- ③ 芝生練習場（サッカー・フットサル・ラグビー練習やスクール等に利用）
- ④ ランニングコース（コンコース（通路スペース）下で雨天時も利用可）
- ⑤ アリーナ（小規模な体育館施設、障害者スポーツで利用可能な設備）

### (2) 便益施設関連の付帯施設

- ① 飲食店、レストラン（カフェ、スポーツカフェ、スポーツバー等）
- ② コンビニエンスストア

### (3) その他の付帯施設

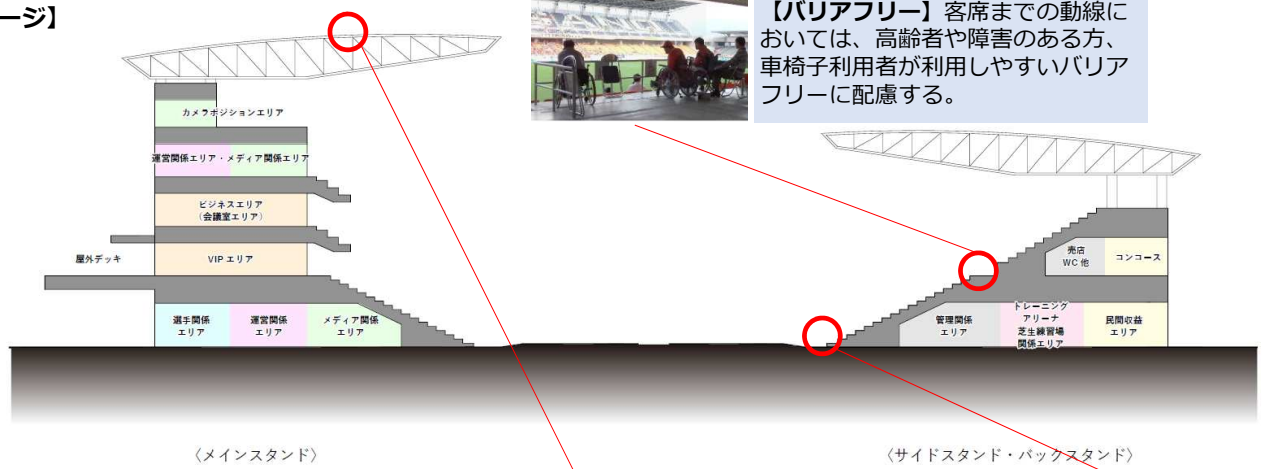
- ① 子ども広場（遊具、ボール遊び場、ボルダリング体験など）

7 モデルプラン

【配置イメージ】



【断面イメージ】



【バリアフリー】客席までの動線においては、高齢者や障害のある方、車椅子利用者が利用しやすいバリアフリーに配慮する。

【配置・動線】ホームのサイドスタンド側にイベント広場として滞留空間を確保し、試合前後のイベント開催に活用が可能。関係車両（選手、スタッフ、メディア、VIP等）は武道場側からメインスタンド下の専用アプローチにより動線の分離が可能。

【環境共生】先進的な環境共生技術を導入したスタジアムとするため、諸室の省エネ性能を高め、高効率機器の導入、再生可能エネルギーの利用、建築材料として県産木材の積極的な活用を検討する。



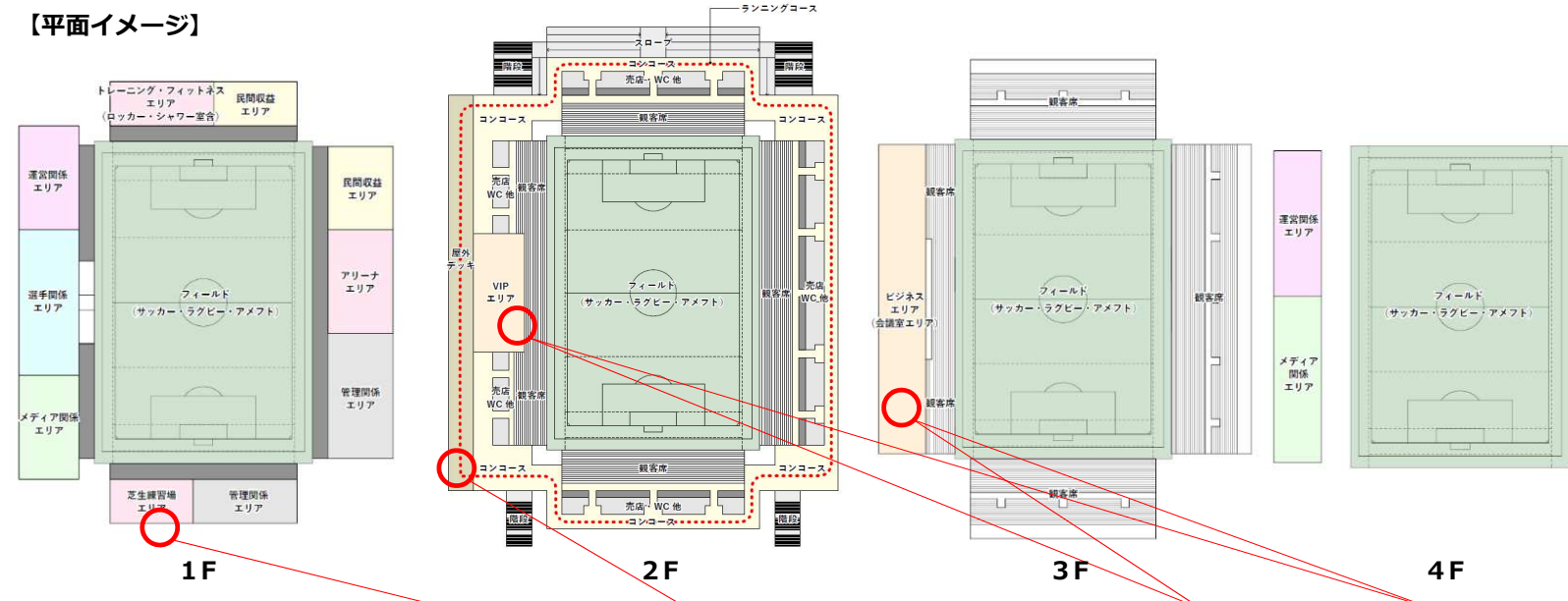
【観客席】バック&サイドスタンドの最前列は、臨場感を味わえる「ゼロタッチ（最前列がピッチの高さと同じ）」。



【平面イメージ】

【基本要件】日本サッカー協会のスタジアム標準で示されている必要諸室等を備える。  
席数は、各種基準に基づく設定や、他県の新設実績・新設計画からの推計により、約20,000席で設定する。  
サッカー、ラグビー、アメリカンフットボールが実施できるフィールドを確保するため、基本のフィールド寸法は、84m×124mとする。（維持管理区域2～3m含む）

	規模
敷地面積	57,000㎡
建築面積	約15,000㎡
延床面積	約32,000㎡
観客席 (VIP、ビジネス)	500席～
観客席 (一般)	20,000席



【公園全体の賑わい】小瀬スポーツ公園全体の賑わいを生み出すために、大規模な大会や宿泊利用誘致、ピッチや公園全体を活用したイベントなどへの取り組み。

【付帯施設】トレーニングジム、芝生練習場、ランニングコース、アリーナなどの整備の検討を行い、日常的に総合球技場が多くの県民に利用されることを目指す。



【VIP・ビジネスラウンジ等】民間事業者の意向を踏まえ、会議やパーティ、レセプションなどでの利活用が可能となるよう検討。



## 8 イメージパース



## 9 概算事業費

### (1) 施設整備費

モデルプランで想定している総合球技場施設の整備にかかる事業費は、設計、工事監理、外構整備費、代替駐車場整備費、用地買収費などを含まずに、現在の建設物価で試算をすると、110～120億円と想定。

事業化の段階では、設計施工一体で行うことによる効率化や民間事業者間の競争により、施設整備費の低減が期待できる。

\*財源については、スポーツ振興くじ（toto）助成金、社会資本整備総合交付金、寄付金制度等の活用検討。

### (2) 運営事業収支

本総合球技場の運営・維持管理にかかる収入・支出は、現在の山梨中銀スタジアムの実績と他施設の事例等を踏まえると、利用料金等収入が40～50百万円/年、ネーミングライツ収入が20～30百万円/年、維持管理費用が130～140百万円/年と想定される。その結果、実質的な財政負担となるのは、50～80百万円/年と想定。

### 【参考】既存施設の改修コスト

現在の中銀スタジアムをJリーグが示すスタジアム基準を満たす水準まで改修を行った場合のコストは約85億円（設計、工事監理等費用は含まず。）。ただし、Jリーグが目指すべきとしている「理想のスタジアム」には改修できない（陸上トラックは残置）。

（主な改修内容）

- ・観客席への屋根架設・個室化・ビジネスラウンジ、スカイボックスの増設など

## 10 今後見込まれる期間

具体的スケジュールの設定においては、他の大規模事業と整備時期等を調整し、財政支出を平準化するなど、適切な財政運営を考慮して決定するものとする。

今後、事業手法を詳細に検討し、事業者公募の手続き、及び事業提案の審査と選定、契約協議などの期間が18～24カ月、事業者が基本・実施設計を行う期間が12～18カ月、施工期間が24～30カ月程度と見込んでいる。

また、並行して代替駐車場の確保、都市計画手続き、必要な用地の買収や測量などを進めることとする。